

- 1) 放射線診療のすべてを實踐できる体制となっている。
- 2) マルチスライスCT、MRIに関する画像診断、SPECTによる画像診断の症例が豊富である。
- 3) 定位放射線治療を含めた放射線治療の症例も豊富であり、放射線専門医を目指すための体制が整っている。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
穴戸 文男

昭和43年 福島県立福島高等学校卒業
昭和49年 東北大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 脳神経系の画像診断 (CT, MRI, PET, SPECT)
- 2) 脳循環代謝測定

研究分野

- 1) 脳神経系の画像診断 (CT, MRI, PET, SPECT)
- 2) 脳循環代謝測定
- 3) 高精度放射線治療

学会活動

- 1) 日本医学放射線学会評議員：平成6年～、代議員：平成12年～
- 2) 日本核医学会評議員：平成元年～、理事：平成15年～平成19年、平成21年～
- 3) 日本画像医学会評議員：平成10年～
- 4) 断層映像研究会大会長：平成18年
- 5) 動態核医学研究会代表世話人：平成11年～
- 6) 断層研究会誌編集委員：平成10年～
- 7) 3次元CT・MRI研究会長：平成20年
- 8) 放射線事故医療研究会大会長：平成19年
- 9) 日本医学放射線学会秋季臨床大会長：平成20年

副部長(講師)
橋本 直人

昭和54年 福島県立磐城高等学校卒業

昭和61年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 放射線診断

研究分野

- 1) 3次元CT画像診断

助手 石井 士朗

平成5年 芝浦工業大学付属柏高等学校卒業

平成12年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 画像診断
- 2) インターベンショナルラジオロジー

研究分野

- 1) 画像診断
- 2) 核医学画像診断

助教 佐藤 久志

昭和62年 福島県立福島高等学校卒業

平成5年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 放射線治療

研究分野

- 1) 定位放射線治療
- 2) 高精度放射線治療

助手 湯川 亜美

福島県立安積女子高等学校卒業

平成13年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 放射線治療

研究分野

- 1) 高精度放射線治療
- 2) 定位放射線治療

助手 宮崎 真

昭和63年 福島県立安積高等学校卒業

平成6年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 放射線診断
- 2) インターベンショナルラジオロジー

研究分野

- 1) IVR
- 2) 3次元CT・MRI診断

助手 海老 潤子

平成14年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 放射線治療

研究分野

- 1) 高精度放射線治療
- 2) 定位放射線治療

助手 長谷川 靖

平成3年 福島県立安積高等学校卒業

平成9年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 画像診断

研究分野

- 1) 画像診断

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	放射線診断：50例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 血管撮影、IVR：10例以上の症例を経験。 放射線治療：50例以上の放射線治療計画を立案。 核医学診断：30例以上の検査の指示と読影レポートの作成。
2年次	放射線診断：50例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 血管撮影、IVR：10例以上の症例を経験。 放射線治療：50例以上の放射線治療計画を立案。 核医学診断：30例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 放射線防護・管理：指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理、の業務を経験。
3年次	放射線診断：50例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 血管撮影、IVR：10例以上の症例を経験。 放射線治療：50例以上の放射線治療計画を立案。 核医学診断：30例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 放射線防護・管理：指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理、の業務を経験。
4年次	放射線診断：50例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 血管撮影、IVR：10例以上の症例を経験。 放射線治療：50例以上の放射線治療計画を立案。 核医学診断：30例以上の検査の指示と読影レポートの作成。 放射線防護・管理：指導者とともに、廃棄物処理、個人被曝管理、の業務を経験。

大学院・留学について

後期研修医と大学院進学を同時にすすめることも制度上は可能であるが、相当の努力が必要と思われる。後期研修を2年程度すすめて、専門医1次試験を合格した後に希望する場合は大学院進学することをすすめる。その場合も日中は後期研修プログラムにのっとり研修し、夜間に大学院で研究する形態が可能である。

海外留学に関しては、希望があれば学位取得の有無にかかわらず、様々な施設を留学先として紹介することになる。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

- 1) CT、MRI、単純X線写真の診断読影技術の習得
- 2) 核医学検査の検査手技と読影技術の習得
- 3) 血管撮影・IVRの手技および読影技術の習得
- 4) 放射線治療に関する手技の習得

後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	太田西ノ内病院	郡山市	小林 弘子	放射線科部長
2	総合南東北病院	郡山市	竹川 鉦一	研究所長
3	白河厚生総合病院	白河市	浦部 真平	放射線科部長
4	磐城共立病院	いわき市	清野 修	放射線科部長
5	仙台厚生病院	仙台市	森谷 浩史	放射線科部長
6	星総合病院	郡山市	星 宏治	放射線科部長

指導医からのメッセージ

放射線医学の範囲は広く、すべての疾患の画像診断（X線画像診断、核医学診断、CT・MRI診断、超音波断層診断）とがんの放射線治療が含まれる。当科は、画像診断、IVR、放射線治療と幅広い放射線診療を習得できる施設である。現在は業務の割合には医局員が少なく、忙しい毎日であるが、その分、放射線科臨床医としての研修が十分にできる環境でもある。

放射線科にて3年間の後期研修後、「放射線科専門医」の受験資格を取得できる。放射線科専門医取得後、更に2年間の研修後に「放射線診断専門医」、「放射線治療専門医」のいずれかを受験し、合格して「放射線診断専門医」または「放射線治療専門医」を取得することになる。また、3年間の後期研修にて日本核医学会PET核医学認定医、4年間の後期研修にて日本核医学会専門医の受験資格が与えられる。5年間の後期研修により、日本放射線腫瘍学会認定医の申請資格が与えられる。

最近の放射線医学の進歩は著しい。CT・MRIの急速な進歩と普及により、放射線科医の職域が広がっている。また、『切らずに癌を治す』という考えのもと、放射線治療の需要が急速に増加しつつある。このような状況の下、現在は人材不足の状態である。是非、放射線科医をめざす多数の後期研修医の参加を希望する。

